

well-being

普段は聞きにくい
”障がい”のこと。
障がい児のお母さん
たちの声をもとに、
関わり方のヒントを
まとめました！



一般社団法人
プレーワーカース
情報誌 特別号

特集

障がいって不幸なの？

- ・ハンディを持つ子と親のこと まずは知ってみよう
- ・マンガ「ハンディっことゆく はじめての水族館」
- ・こんなときどう思ってるの？
- ・障がいと向き合うはじめての一步 Q&A



おせっかいだけど、
あなたの事が知りたい。
聞きにくいけど、
あなたの困り事。
私たちの知る
子どもの遊び場には、
よくおせっかいな人が居て、
個性も生きづらさも
まるごと認めて、
《その人》を受け入れます。

この本も、おせっかい！
遊び場で聞こえてきた声から
この本は生まれました。

「遊ぶ」が社会を変える

私は、子どもにとつての遊びとは、
生きることだと考えています。「遊びた
い」という心の原動力は、強く子ども
を突き動かします。遊ぶために挑戦し
つづける中で、子どもは想像力や主体
性を学び、目的を達成するために人と
のコミュニケーションや社会性を自然
と身につけていきます。そうして自ら
の自尊心を高め、生きる力を育んでい
きます。

冊子のタイトルにした「well-being」
には、「今よりも、より良い状態へ！」
という想いを込めました。子どもは遊
びこむ中で、自らがより良い状態にな
るよう動いていきます。今回、障がい
と向き合う子どもにとつてもそれは同
じでした。家庭やまちなか、公園やお
店の中など、ありとあらゆる場所で子
どもは自らの興味関心に向かって遊び
だします。そして子どもが元気に遊ぶ
ことでその周りにいる大人も笑顔に
なっていく様子が見えました。

ですが、ハンディを抱える子どもの遊
び環境はまだまだ豊かではありません。
遊ぶにも周りの視線が気になる、散歩す
るだけでも不審者扱いされる、行動や言
動等に気を使いながら生活をするなど、
まだまだ生き辛い社会なのだと感じまし
た。こうした現状を少しでも多くの方々
に伝えたい。そうした想いから本冊子を
作る運びとなりました。

この冊子を読んだ方々にとつて、障がい
への理解と新たな気づきの一步になれば
と願います。



一般社団法人プレーワーカース
理事・事務局長 神林 俊一



well-being 一般社団法人プレーワーカース情報誌 特別号

●編集・発行 一般社団法人プレーワーカース
〈名取事務所〉〒981-1241 宮城県名取市高館野堂字飛鳥中3
TEL: 022-397-7507 Eメール: info@playworkers.org
〈気仙沼事務所〉〒988-0085 宮城県気仙沼市三日町1-3-13
TEL: 080-3336-2011 Eメール: kam@playworkers.org

●デザイン・イラスト・校正 種坂奈保子
●協力 ふあみりあ、気仙沼市マザーズホーム、
気仙沼ハンディっこ座談会、気仙沼市内の保護者の方々
●発行日 2017年12月13日
本冊子は復興庁の助成を経て作成しております。
©一般社団法人プレーワーカース



障がいって不幸なの？

特集

ある時、
障がいがかかえる子どもの親から言われました。

「障がいというだけで市民権も人権も無い。」
「田舎では、障がいと向き合おうとしても地域の
視線が痛くて影のように生きていくしかない。」

これらの声は、私たちが子どもにとって生きるために必要な“遊ぶ環境”の大切さを考えていく上でも、切っても切り離せない大切なキーワードだと感じました。

「ねえ、なんであの子だけ違うクラスなの？」
「ねえ、なんであの子は顔も体も私と違うの？」
「ねえ、なんであの人と遊んじゃいけないの？」

こうした子どもの問いかけに私たち大人はどれだけ向き合っているのでしょうか？

本冊子では、日々障がいと向き合い続けている方々の声を集めて「障がいと向き合うはじめての一步」を考えていきたいと思います。



プレーワーカーズとは？

一般社団法人プレーワーカーズは、子どもの遊ぶ環境をより良くしていくため、全国を駆け回る遊び場づくりの専門家（プレーワーカー）の集まりです。

設立のきっかけは2011年3月11日の東日本大震災以降、遊びを通じた子どもの心のケアを目標に「NPO法人日本冒険遊び場づくり協会」の被災地支援事業として活動してきたこと。その後、より東北地域に根差して活動を行うため2015年に「プレーワーカーズ」という法人格を取得し、引き続き子どもが豊かに外で遊べる環境づくりに努めています。

遊びに最大限の価値を！

当団体の軸にもなっているPLAYWORKとは、子どもがいきいきと遊ぶことのできる環境をつくる専門分野のことです。1980年代に生まれ、イギリス・ドイツなどで国家資格として扱われています。

現在、PLAYWORKは子どもの遊び場づくりに留まらず、医療の視点から「遊ぶ」ことによる精神的なケアや、紛争地域や家庭内暴力など危機に瀕している子どもの環境に「遊ぶ」ことを用いて傷ついた心を癒し生きる力を育むなど、「遊ぶPLAYWORK」という力が世界的に注目されています。

WHAT'S
"PLAYWORK" ?



1

変なところを触ったり動かしちゃう

Voice1

スーパーに買い物に行った時、ちょっと目を離した隙に息子を見失う。
やっと見つけたと思ったら、
商品をひたすら床に縦一直線に並べていた(笑)



自分の心を落ち着かせているのかな？
大好きな商品や、気になる色や形の物が目に入ったら、
自分の近くに並べて遊んでいるのかも。

Voice2

ストッキングの触り心地が好きで、**サワサワなでて
しまったり**、スニーカーなどの靴の底が気になる
のか、**地面に這いつくばってみたり**します。
一見、どう見ても変態です(笑)



触り心地が気持ちいいのかもしれませんがね。
また、歩いているリズムや、砂や砂利を踏む
ときの靴の足音が気になるのかも。

◎ ハンディとは？

ハンディ（ハンディキャップ）とは、社会的不利という意味です。障がい者本人に課題があるのではなく、障がい者が暮らすうえで社会の側に課題があることを指しています。

また、「障がい」とひとことに言っても、医学的には身体・発達・精神障害など様々な種類があります。手足が不自由など見た目で見分かる障がいと、脳やこころなど見た目では分からない障がいがあります。

社会の側の課題をなくしたい、という想いを込めて、これらの障がいを持つ子どものことを、この冊子では「ハンディっこ」と呼んでいます。

ハンディっこのお母さんたちに聞いた！

お出かけしたときに困ったランキング

1

変なところを触ったり動かしちゃう

2

他人の視線がチクチク痛い…

3

海を見たら「入りましょう！」



レッサーパンダのイナ先生
障がいを持つ子どもの専門家です。
補足のコメントをしていくよ～！

まずは知ってみよう。
ハンディを持つ子と親のこと

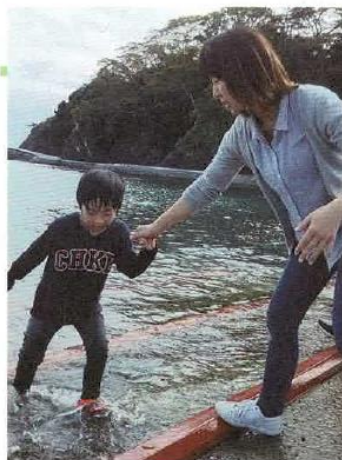
3 海を見たら「入りましょう！」

Voice1

水が大好きで、冬の海でも見ちゃったら入っていく。とっっても入りたいんだろうけど、止めるのに必死！

Voice2

水場があるともう大変。
冬だろうとびちゃびちゃになって遊びたがる。



本当に海が好きで入りたいんでしょうね。ひんやり冷たいとか、びちゃびちゃの感覚とか、楽しく遊んだ時の記憶が蘇ってきて、「海=いつでも楽しい」という記憶が繰り返されているのかも。

そのほかにも・・・

- 車イスマークのトイレ発見！でも中を見たらユニバーサルシート（身体障がい者が横になれる介助シート）がなく（涙）デパートの中をグルグルまわり、仕方ないから赤ちゃん用で交換。赤ちゃんじゃないけど！笑
- 病院の呼び出し音（ピンポーン）がダメで、泣き崩れてしまう子もいる。
- 大きな音や拍手が苦手。音が鳴ってほしくないけどイベントではそうもいかず突然の拍手に大泣き。お祭りやイベントは音に敏感な子どもには辛いのかも。
- 赤ちゃんや子どもの泣き声が苦手で、近くで赤ちゃんが泣くとあからさまに耳を塞いで怪訝そうな顔をしてしまいます。相手に申し訳ない。



- 天気も良かったのでバーベキューしましたが、うちの子はいつもの如く自分の思ったようにはいかず、砂利と草だらけの上に寝そべり1時間かたまってしまいました。
- 公共の駐車場、病院の床の上など、気分が悪くなると、ところかまわず石になり動きません。

お出かけしたときに困ったランキング

2 他人の視線がチクチク痛い…

Voice1

息子がおばあさんにぶつかってしまい、わたしの目を見て『痛いじゃない！』と終始ご立腹。走り回ったり、商品の中でかくれんぼなんて日常茶飯事です。

Voice2

大きな声を出すと周りのお客さんが見てくるのがつらい。家族や兄妹もハンディっこに對して意外と厳しいのが苦しい。



お店や施設だと音楽や人の多さに興奮する子もいます。そうした子どもからすると、ここは楽しい遊び場なのかも！逆に気分が悪くなってしまったり、泣いちゃう子もいます。

Voice3

障がいに対しての近所の理解が少ないため、人目が気になる。

Voice4

普通の公園にいと、一般のお母さんの目が気になる。子育ての悩みが違うので、普通の会話もできない。

Voice5

地域の目が痛い。「この子、足にいっぱい装具[※]つけてる」という目で見られる。言っちゃいけない・見ちゃいけない空気を大人がつくる。近づこうとする子どもを抑える親もいる。

※ 装具とは身体の障害を軽減するため装着する福祉用具。立つことや歩くことをサポートする。



2 「足が悪いからダメ」ではなく 「〇〇くん遊ぼう！」と言ってくれた

Voice1

子どもの友達が「足が悪いから無理だよ」
ではなく「〇〇くん遊ぼう！」
と言ってくれて嬉しかった。

Voice2

自然に話しかけたりしてくれたら、
やっぱり嬉しいな。
「〇〇くん、
おしゃべり増えたよねー!」
とか普通に話してくれるのは、ホッとします。



3 健常児もハンディっこも関係なく遊んだ



Voice1

小さいうちからハンディっこと一緒に過ごす
ことで、障がい関係なく友達でいられるから
と、ハンディっこの集まる遊び場に健常児を
連れてきてくれたお母さんがいました。

ハンディっこを育てるママ達の思いや悩みを
知って、自分も相手を傷つけないような話し
方を考えたり、寄り添ってくれる優し
い想いに感動でした!



ハンディっこのお母さんたちに聞いた!

周囲にやってもらって 嬉しかったことランキング

1

自然に何気なく話しかけてもらった

Voice1

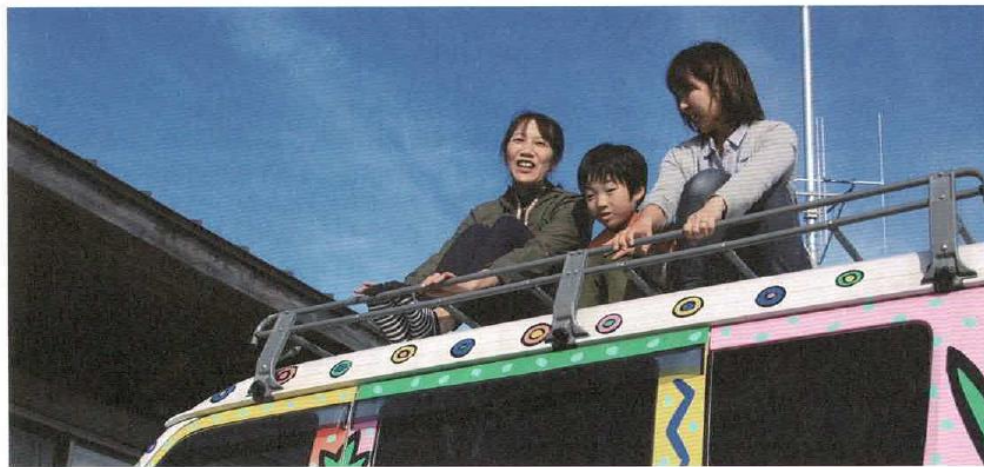
「大丈夫!! こんなに元気なんだもの!!

子どもは元気だったらいいのいいの!!
「ガハハ」みたいな感じで、おばあちゃん
達が言ってくれたのが嬉しかったです。

Voice2

「大人も子どもも介護って
大変だよね。お疲れさまね。」

と言われた。大変だけお互い頑張ろうね、
という意味だったから嬉しかった。



ハンディを持つ子どもの遠足の実話をもとにしたマンガです。発達障害、もしくは診断を受けていない「グレーゾーン」の子どもに見られる特性の一部を紹介します。外見からは分かりにくい障がいのため、その子の性格や育児が原因と間違われることもあります。しかし、その子の特性は、その子が生まれ持ったものなのです。



ハンディッコとゆく はじめの水族館

ある日、ママは言いました。
はーくん 水族館に行くよ！

はーくん 楽しそう！ 今から行く！

えっ 次の土曜だよ

特性その1 一度スイッチが入ると戻りにくい。 なる、水族館…？

今から行く！ 今から行く！

当日

チケット売場

あつ待って！

特性その2 思いついたらすぐ行動。

走らないよ

そっかダメなのか

特性その3 言葉だけでは伝わりにくい。図や絵の方が理解しやすい。

でも 楽しんでる

カードを っくたりします

この子と歩く水族館はドキドキの連続でした。

ジャン

水すき

特性その4 感覚が敏感。大きい音や光、拍手が苦手。

パニック

なんでそこに！

ほら あつちのペンギン見ようね

周りのお客さんから視線がチクチクと刺さります。

はあ…周りに迷惑だったかしら…

追いかけて周りに謝ってすぐく疲れた

失敗もあつたけど来ててよかったね。

みなさんの身近にも、「ハンディッコ」は居るかもしれません。ひとつの障がいでも特性は人それぞれ。ぜひ「その子」を見てあげてくださいね。

※このマンガで紹介した特性は、すべてのハンディッコに当てはまる特性ではありません。

大声を出す

公園で遊んでいる我が子。
この日は風が強く吹いていて
ビュービューっと吹くと我が子が
「あああー、あー！」と叫びだしてしまいました。
嫌なんだか楽しいんだか、なんなのでしょう。



イナ先生のひとこと

嫌な音をかき消すように「やめてくれーアアア！」というときもあれば、大人でも楽しい気持ちを表現するときに叫ぶこともありますよね。また、障がい特性によっては発語が苦手なコミュニケーションをとるために叫ぶように聞こえる場合もあります。その子がなにを考えているのか様子を見ていくことが大切です。

障がいは、視点の違い

日本における障がいの者の総数は約788万人であり、人口の約6%に相当します。つまり、16人に1人が何らかの障がいを持っていることになりました。自分とは違う育ちや外見というのは、大小全ての人達に共通することです。障がい者からすると健常者のほうが変だと感じるところもあるかもしれませんが、「なんでじっと静かにしているの?」「なんで騒いでいるの?」一つの事でも様々な視点の違いがあります。ですから、「健常者≠障がい者」ではなく、「違う視点の人≠違う視点の人」というとらえ方をしてみてはいかがでしょうか。

ねえ
ねえ

こんなとき どう思ってるの?

ハンディっこが起こす行動が、ときには周りに理解されにくいことも。「なぜそんなことするの?」と思うことも、本人なりの理由があったりするのです。

耳をふさぐ

地域の行事やお祭りで、急にクラッカーの音が鳴ったり、大声で「当たりー!」とベルの音になったりするとき。
ビックリしたように耳をふさいで座り込んだり、慌ててその場から逃げようとしたりします。



イナ先生のひとこと

こうしたケースの子どもは感覚過敏の可能性もあります。その子が予測していない場面で大きな音や光などが起きるとパニックになったり座り込んだりするようです。また、びっくりしている自分の心臓の音を聞きたくて、耳をふさぐこともあるようです。

／もつと／ お互いの 声

を聴く

お互いの悩みは目に見えにくいもの。
気軽に話し合い、理解し合う場や雰囲気があれば、
きっと誰にとっても暮らしやすくなるのではないのでしょうか。

▶ ハンディっこのお母さんたちの声

障がいの有無が関係ないイベントや場所があれば、
障がいに対する文化が変わるかもしれません。

子ども時代に障がいの有無関係なく一緒に遊べる場が
ほしい。小さいころからお互いの理解を深めたい。

親が居なくなった後を考えていかななくてはいけない。

働きながら子育てしたい。
ハンディっこを預けるところがない。

▶ 一般の保護者の声

「うちの子もこうした障がい特性をもっているん
ですよー」と先に言ってくると安心する。

向こうも「話しかけないで」という雰囲気があるから
どう接すればよいかわからない。

お店や病院とかで障がいを持つ子どもが走り回っている
のを怒る保護者を見て「いいのにい」と思うんだけど、
それを言えない雰囲気や文化があるから難しい。

本当は親と親が素直に声を掛け合うことで、
だいたいの事がうまくいく気もする。

身の回りにいる、ハンディっこやその家族
と、どう接していいかわからない・・・

相手に失礼なことを言うてしまうのではな
いかと不安で話しかけられない・・・

そんな方へ、当事者はどう接してほしいの
か、ハンディっこのお母さんたちに聞いて
みました！



障がいと向き合う

はじめの一步

Q & A

Q 同じ保育園の子どもが障
がいを抱えているのですが、
どう関わると良いですか？

Aさん

「言い方悪かったらごめんね」と、知り
たいけど上手く言葉が選べないという思
いを伝えてもらえたときは良かった。

Bさん

まずは理解したいという思いは伝わる
ので、何気なく話しかけてほしい。

Cさん

「障がいがある可哀想な子ども」ではな
く、〇〇君は〇〇君として接して欲しい。

Q 公園で障がいを抱えた子ども
と我が子が遊んでいて、その
親と関わりたくてもどう声
をかければいいのか・・・



Aさん

怖いとか不安に思っているかも知れませ
んが「君は走るの早いねー」など、子ど
もが遊んでいるありのままの姿をまず受
け止めてほしい。

Bさん

「どういう風に接したらいいのかな？」と
やんわり聞いてくれるのが嬉しい。

Cさん

興味本位ではなくて、ちゃんと知りたい
という思いで話してくれるのは嬉しい。